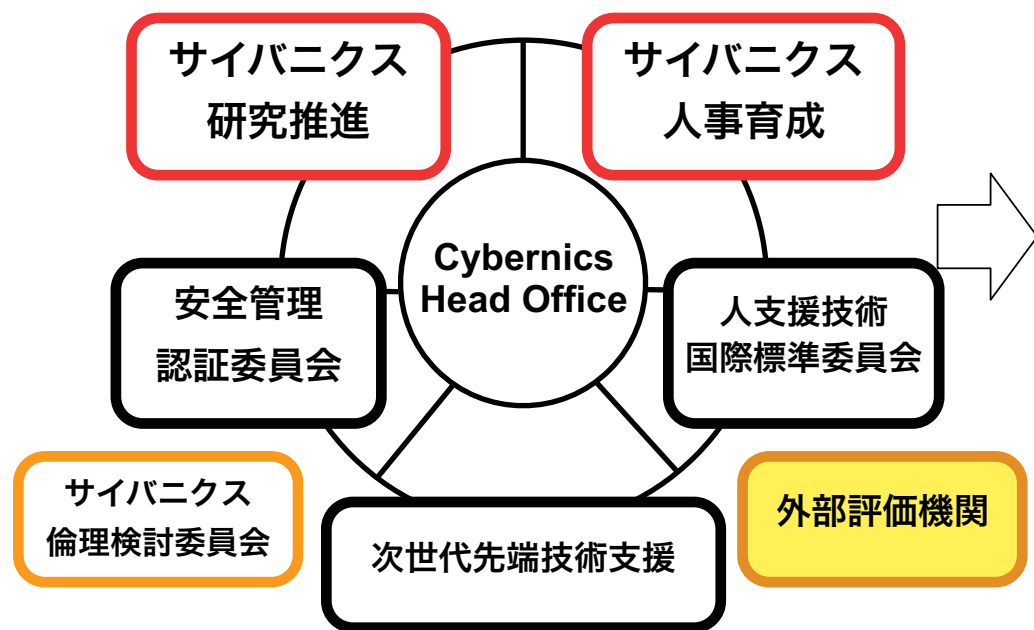


健康長寿を支える産業の創出と事業化 促進に向けた課題と取り組み(1)

①健康長寿を支える技術の中核とする開発拠点形成
(産官学民による出口志向の総合的な連携体制の強化)



評価、研究開発推進・実用化支援

利用者と協力し、開発・実証・実用化を推進 (産官学民の新連携体制)

国(独法)の研究者の連携 (社会還元加速プロジェクト等)

海外との連携を含めた幅広い技術の集積

国際標準化を推進

ベンチャー等新産業創出を誘導

継続的な人材育成を推進

行政府

諸外国

国際拠点
サテライト

連携研究
教育機関

産学リエゾン
共同研究センタ

産業界

健康長寿を支える産業の創出と事業化 促進に向けた課題と取り組み(1)

①健康長寿を支える技術の中核とする開発拠点形成 (産官学民による出口志向の総合的な連携体制の強化)

海外から相次ぐオファー

- 欧州から(例:全体で640億円の枠組みの一つとして)
 - 研究開発拠点/運用拠点形成に向けて
 - 潤沢な開発資金の提供・研究開発PJへの参画
- 近隣諸国から(例:10年100億円プロジェクトとして)
 - 民間企業から技術移転の要請
 - 軍事用途への転用依頼

利用者と協力し、開発・実証・実用化を推進 (産官学民の新連携体制)

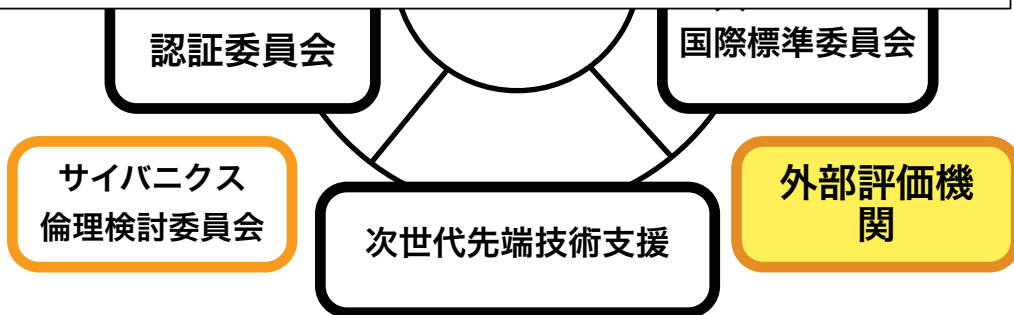
国(独法)の研究者の連携 (社会還元加速プロジェクト等)

海外との連携を含めた幅広い技術の集積

国際標準化を推進

ベンチャー等新産業創出を誘導

継続的な人材育成を推進



評価、研究開発推進・実用化支援

行政府

諸外国

国際拠点
サテライト

連携研究
教育機関

産学リエゾン
共同研究センタ

産業界

健康長寿を支える産業の創出と事業化 促進に向けた課題と取り組み(2)

②技術成果の早期事業化を促進するための環境整備

(I) 事業化を加速する安全基準・認証制度

1) 活用用途・目的に即し、過度になりすぎない柔軟な安全基準

2) 新技術も積極的に取り入れるための認証機関とそこでの高度技術専門家の育成と活用

3) 企業がメリットを感じる認証ブランドの確立

(II) 新技術の早期導入を可能とする責任制度

1) 利用者への説明責任や専門家による利用指導、研修等の活用による責任の分界の明確化

2) 上記のような取組と併せて企業の責任をカバーする保険制度の充実

健康長寿を支える産業の創出と事業化 促進に向けた課題と取り組み(2)

②技術成果の早期事業化を促進するための環境整備

(I) 事業化を加速する安全基準・認証制度

1) 活用用途・目的に即し、過度になりすぎない柔軟な安全基準

2) 新技術も積極的に取り入れるための認証機関とそこでの高度技術専門家の育成と活用

3) 企業がメリットを感じる認証ブランドの確立

例) 許認可に関する日本と欧州との比較

日本 許認可が複雑 → 審査期間が長い → 事業展開に時間がかかる。国際競争力の低下。

・他の技術との比較や類似性を問う傾向 → 新しい技術への対応の遅れ

欧州 自己宣言＋第三者認証機関による品質認証 → 短期間で出荷が可能(スピーディな国際事業展開)

・新しい分野の機器に対しても積極的に審査 → 世界中から新しい技術が集積

→ CEマークの「ブランド化」が進む

新産業創出と事業化展開を国際的に加速させる拠点形成／安全基準／認証機関の必要性。